２．事業の目的と概要	
（１） 上位目標	（ア）教室不足解消による教育環境改善 （イ）スラエチェーン地区の小中学生の就学率の向上・退学者の減少 （ウ）トイレ・手洗い場・雨水貯水タンクの設置で衛生環境の改善 （エ）校舎維持管理のための学校建設委員会の組織化 （オ）地域に開かれた図書館の開設
（２） 事業の必要性（背景）	（ア）校舎がないトゥールプチャック中学校 カンボジア政府は 2015 年までに、全ての子どもが最低 9 学年を修了できることを目標に、各地区に中学校を 1 校設置することを決定した。しかし、政府の予算不足のため校舎の建設がならず開校できなかったり、小学校の教室を借りてかろうじて開校したりしている。 スラエチェーン地区は、郡の中で一番広大な面積と人口があり、本来ならば 2 つの地区に分かれてもよい地域である。現在、校舎がある中学校はプレイクレイ中学校だけであるが、校舎が不足のため進学希望の全ての生徒を受け入れられない。 そこで、2011 年同地区にトゥールプチャック中学校を、同じ敷地内のアンポーワンジョッテラン小学校の校舎を間借りして 7 年生のみで開校した。現在、小学校の 3 教室と近くの寺の小屋 2 箇所を借りて 5 クラス 260 名が学習しており、政府のカリキュラム 34 時間のうち、30 時間しかこなすことができていない。寺の小屋は壁もなく風雨の時は利用できない。 （イ）同敷地内の老朽化したアンポーワンジョッテラン小学校 間借り先の小学校は、1963 年に開校。1996 年に村人と地元 NGO の支援で 1 棟 3 教室を建設。1999 年に政府の資金で 1 棟 3 教室を増設。これまで村人が補修を行ってきたが、1996 年の校舎は傷みが進み村人の力では手に負えない状況である。現在 9 クラス、346 名。中学校に 2 教室を貸して教室が不足のため 1 棟 3 教室のうち 2 教室と、寺の小屋 3 カ所を借りて 2 部制で勉強している。 （ウ）村の家にトイレがなく衛生状態が良くない カンボジアの 5 歳未満の死亡率は、世界の中でも高い。トイレを設置している家庭が少ないと言うことも原因の一つに挙げられる。へき地農村ではトイレのある家は 5%程度。腹痛や皮膚病にかかる子どもも多い。小学校に 1 棟 2 室のトイレがあるが、そのうちの 1 室は詰まって使用できない。学校にトイレを設置して子どもたちに衛生指導を行えば、子どもを通じて衛生知識を浸透させることができる。トイレ設置に当たっては、衛生状態を保つために雨水の確保が必要である。 （エ）学校の維持管理体制が不十分 校舎を長期にわたって良好な状態を保つためには、学校を地域の共有財産として大切にする住民意識を醸成する必要がある。将来まとまった修繕が必要になったときに通常の学校の資金では費用を賄えないので、積み立てをしておく必要がある。

	（オ）学校にも村にも本がない 学習に欠かせない十分な図書を備えた図書室がなく、子どもたちは教科書以外の本に接する機会がない。村にも本がないため、有用な情報を得ることができない。
（３） 事業内容	（ア）トゥールプチャック中学校の建設 新校舎建設予定地（110m×48m）に、4 教室平屋（40m×9m）を 2 棟建設する（敷地図を別添）。8 教室中 2 教室を職員室、図書室とする。備品として各教室に黒板、掲示板、教師用机椅子、生徒用机椅子、図書室に本棚、図書を備える。付帯工事として、国旗掲揚台、門、寄贈者プレートの設置を行う。建設予定地は埋め立てた土地ではなく、これまで水田として利用したことがないため校舎建設に問題はない。 （イ）アンポーワンジョッテラン小学校の補修 1996 年建設の 1 棟 3 教室の屋根、壁、床の補修を行う。 （ウ）トイレ・手洗い場の設置で衛生環境を改善 新設の中学校には、雨水を利用できるシステムを備えたトイレ 1 棟 4 室と手洗い場 2 基、2 つの校舎に雨水の貯水タンクをそれぞれ 4 個（3000L×4）、合計 8 個を設置する。小学校の 1 棟 2 室のトイレは全体的な補修を行い、手洗い場、貯水タンク 2 個（3000L×2）も設置する。貯水タンクには雨期に雨水を貯め、乾季にも利用できるようにする。児童生徒がトイレ、手洗い場を適切に利用することができるように、教師が十分な指導を行うことができるようにする。 （エ）地域住民参加の校舎建設、「学校運営委員会」の組織化 建設にあたっては住民や生徒に、施工前の整地および基礎工事における埋め戻し作業に参加してもらい、工事に携わる職人の 3 分の 1 程度を村人から採用する。その後は「学校運営委員会」を設置し、維持管理は学校が中心になり、住民が協力して行うようにする。構成員は村長、寺関係者、校長、村民などを想定する。 （オ）地域に開かれた図書室の設置 中学校に設置する図書室を、小中学生の生徒だけではなく、村人も利用できるものとする。図書は生徒用 300 冊と、村人用 200 冊（農業、生活知識など）を置く。広く地域住民にも開かれた図書館とするため、住民の図書室の利用促進と生活向上を目的として農業知識を中心とした講座を開催する（建設前の住民集会、開校 1 カ月後、開校 1 年後の 3 回）。
（４） 持続発展性	（ア）学校の安定した運営 教師の配置については事前に州政府の了解を得てから開校し、給与も政府から支払われるため、安定的に運営される。当会がこれまで建設した 132 校で運営難になったところはない。 （イ）「学校運営委員会」・「補修積立金」の推進 事業前に村民集会を開き、「学校運営委員会」を結成する。運営委員会を中心に「補修積立金」を始めることを推進。積立金は年 1 回村長が村民から集め、運営委

	員会が銀行で管理することを勧める。開校１か月後当会が学校を視察し、校舎の不具合については直ちに補修するが、その後の不具合については、政府の資金、及び補修積立金で持続的に校舎の管理を行えるようにする。 （ウ）教師による衛生指導の実践（理科教育の一環） 校舎完成後小学校全教師と中学校理科の教師を対象に、理科の学習内容である「衛生的な生活指導教師研修会」を開催し、子どもたちにトイレの利用の仕方、手洗いの習慣を身につけさせるための衛生指導の充実を図る。教材を整備し、継続的に十分な指導が行われるようにする。 （エ）地域に開かれた図書館活動の推進 村民が本を利用しやすいように本の貸出もできるようにする。補修積立金の一部を図書購入費に当てて、生徒や村民の希望する図書を購入し、図書の充実を図れるようにする。生徒からなる図書委員会を構成して本の維持管理に当たるようにする。この活動が定着するまでは、定期的に指導助言を行う。
（５） 期待される成果と成果を測る指標	（ア）　物理的な面での教育・衛生環境に関する課題を解消する。 **①　中学校の教室の不足　→新しい８教室完成** 教室不足による２部制が解消し、政府のカリキュラムをこなせるようになる。進学を希望する中学校７クラス 362 名（102 名増）が全員学習できる環境が整う。 **②　小学校の教室の不足　→中学校から教室返却、老朽化した３教室を補修** １棟３教室が補修されて安全に使用できるようになり、進学を希望する 10 クラス 401 名（55 名増）が学習できる良好な環境が整備される。スラエチェーン地区の就学していないか退学した子どもたち 136 名が復学することが可能になる。 **③　トイレ１室　→中学校に１棟４室完成、小学校に１棟２室補修** **雨水を利用した手洗い場付き** たった１室の小学校のトイレを小中学校の 15 クラス 631 名が使用せざるをえない劣悪な状況が解消される。教師の適切な指導により、子どもたちがより衛生的な環境で過ごせるようになる。 **④　小中学校に図書室がない　→中学校に図書室が完成** **村人も使用できる地域に開かれた図書室** 児童生徒向け図書 300 冊、成人向け図書 200 冊を設置。村には教科書以外の本がないので、子どもたち、村人の知識の向上に役立つことができる。 （イ）運営面での課題を解消する。 **補修費用の不足　→補修費用の積立** 将来補修が必要になったときに積立金を利用して補修し、校舎を良い状態で長く使えるようになる。毎年積み立て状況を確認する。